

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価 (3月29日実施)	
		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	思考力・判断力・表現力等の醸成に向けた授業展開の研究や組織的な授業改善に取り組む。	生徒の実態に基づく授業の評価やアンケートを実施する。	生徒による授業評価の全項目における「良く当てはまる」の平均値が昨年度を越えることができたか。	「授業の進め方」は若干昨年度を下回ったが、それ以外の項目については、「良く当てはまる」は昨年度を超えることができた。	「良く当てはまる」「当てはまる」の合計で比較すると昨年度を下回っている。生徒の学力間較差が広がっていることも考えられるので、「授業の進め方」も含め、更にきめ細かい教科指導や授業改善に取り組みたい。	・自ら考え理解を深めるために、画像を効果的に活用できていた。女子の活発さが印象に残っている。	・農業関係科目に関する生徒の授業評価についてはおおむね目標を達成できた。 ・授業だけではなく、コミュニケーションに関する講話等、様々な機会を通じ、いのちを大切にすることの涵養に努めた。 ・公開授業や研究授業における研究協議を通じ、組織として授業改善に取り組んだ。	・各年次に応じた基礎学力定着のための取組みを継続、強化するとともに、実情に応じて応用力の育成を行い、個に応じた進路希望の実現を図る。
2 生徒指導・支援	①問題解決や継続的な指導・支援を行うため、早期発見、未然防止に努める。 ②基本的な生活習慣の確立 ③生徒に社会性、指導性を育ませ、自ら判断して、行動・活動する力をつける。	①生徒・保護者への指導方針の明確な説明及びアンケート・講演会を実施する。 ②あいさつ運動や頭髪、服装指導を組織的に継続して実施する。 ③各種委員会の運営を生徒が主体的に行う組織作り等、生徒へのサポートを行う。	①迅速かつ丁寧な対応ができたか。実状に即したアンケートや講演会を実施できたか。 ②100回以上実施することができたか。 ③学校行事などへ積極的に参加する生徒が増えたか。	HR等を活用し、基本的な生活習慣の定着や規範意識の向上に努め、意識の向上を図った。問題行動未然防止の観点から、講話を行った。職員の共通理解と保護者との連携を図ることで、一人ひとりの状況に合った指導や支援を行った。年100回以上の登校指導、通学路指導が出来た。	登校指導、通学路指導は一定の成果があがっている。まだ十分ではないので、引き続き、粘り強く、指導を継続して行う。自分を大切にするとともに、他者を尊重し、多様性を認め合う力を育てるために引き続き、HRでの呼び掛けや講話を行う。学校規模が縮小することになり、行事の形態を検討する必要がある。	・長期欠席者への対応は手厚く行って欲しい。 ・青年期のストレスの発散の機会としても部活動を活性化して欲しい。	・登校指導により服装・頭髪等に対する一定の規範意識が生徒の身につくにつがある。 ・通学路におけるマナーについて機会をとらえて指導してきたが、一部生徒の理解が十分でなかった。 ・生徒一人ひとりの希望に応じた進路実現とキャリア形成を目指し、現在のキャリア学習を継続するとともに、更なる充実を図る。 ・進路ガイダンスを早期から実施することで生徒・保護者に対しての啓発を深める。	
3 進路指導・支援	進路ガイダンス等を通して、自己の目標にあった系列を学習し、進路決定に結びつけるように指導する。また、具体的な社会人像を身につけられるよう指導する。	LHRや総合的な学習の時間等における進路ガイダンスの充実をはかり、選挙に関する講話や模擬投票を通しての政治参加意識の向上をめざす。	総合学科第1期生より着実に系列に沿った進路選択をする生徒が増加し、一昨年度は61%、昨年度は60%の生徒が達成している。今年度においても60%の生徒が系列に沿った進路選択ができたか。	系列に沿った進路選択をしている生徒は58% (1月末現在) となっている。進学・就職ともに、3年次になって、進路選択を考え直す生徒が数名増加したと考えられる。政治参加意識の向上は図ることができた。	1年次より計画的に進路ガイダンス等を行い、自分の進路選択に生かしていく。政治参加や消費者教育なども講師を招聘するなどして、LHRや総合の時間等に扱い、社会人として生きることについて考えさせていく。	・インターンシップなどの体験が、学校生活や学習面、進路決定に大きな効果をあげている。 ・県立の農業アカデミー等への進路希望者を増やして欲しい。	・三者面談をほぼ全生徒に実施するだけでなく、必要な生徒に対しては機会をとらえて保護者に連絡するなど、三者の情報共有を図った。 ・外部機関との連携により、キャリア教育・シチズンシップ教育の推進・強化を行った。	

4	地域等との協働	<p>①開成町との連携の充実</p> <p>②新校に関する確かな情報を発信することで、地域からの信頼獲得を図る。</p>	<p>①開成町幼・小・中・高連携事業の取組を継続・発展させる。</p> <p>②時期や新校準備状況に応じた情報発信を行う。</p>	<p>①開成町との連携を継続・発展させることができたか。</p> <p>②タイムリーな情報発信ができたか。</p>	<p>連携事業については、前年度の取組内容の精選をすすめた。新たな取組として農業クラブにおける活動を広め、生徒の研究活動に生かすことができた。学科改編準備を着実に進め、設置計画の進捗状況と連動させ、パンフレットを段階別に発行しながら、学校説明会等で周知を図った。</p>	<p>本校が研究しているE提案の内容を、地域等との協働・連携を通して一層研究し、学校の教育力の向上を図りたい。また、きめ細かい地域への情報発信をすすめ、協働・連携の内容を、更に深めていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協働のスタイルとして、すでにある活動に学校が参加する方式を進めたらどうか。 ・農業クラブ活動が活発である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内向けの行事だけでなく、学校説明会等への外に開かれた場で、生徒が主体的に活動できる場を設けた。 ・生徒会や農業クラブの活動を中心に、地域との交流を深化させることができた。 ・マスコミを通じて本校生徒の取り組みを発信できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校 HP の更なる活用や部活動等の生徒による積極的な地域との交流等により、地域社会の、本校に対する理解の深化を図る。 ・新校に関する確かな情報を発信する際に、活動紹介を生徒が行うことにより、中学生や生産者にアピールする。
5	学校管理 学校運営	<p>日頃から教育環境に目を配り、改善点を全体で共有する。</p>	<p>全職員による安全点検を年2回実施し、危険箇所を改善を行う。</p>	<p>安全点検の結果を全職員に周知し、危険箇所を速やかに改善することができたか。</p>	<p>清掃箇所の安全点検を実施した。</p>	<p>清掃箇所の確認はしているが、安全か危険かという視点が欠けているため報告がほとんどなかった。新校の完成年度を見据えて、HR 教室や特別教室の有効活用を検討する。・防災時に高校との協力を考えて欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災時に高校との協力を考えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練や各種安全教室開催時の様子から、生徒の危機回避能力は一定程度身に付いていると思われる。 ・消防訓練や防災関係の協力を考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科改編に合わせ、農場の既存の施設・設備の整備を行うとともに、必要なものを要望するなどして、学科改編後の学校にふさわしい社会実践力が身に付けられるように努める。 ・非常食や防災機材の有効活用を検討する。